

# 第125回 ボート祭

第125回ボート祭が、5月21日(土)22日(日)の2日間にわたり開催された。毎年5月に桜ノ宮の大川で行われるこのボートレース大会は、市大生だけでなく一般市民も参加することができる。1889年から続いており、今年で125回目という大きな節目を迎えた。荒川学長による開会の挨拶では、本大会のルーツである「水上運動会」について触れ、その歴史の深さを語った。

レースは学部の部、文化系サークルの部、体育会系サークルの部、教職員の部、女子の部、市民の部の6つの部門に分かれている。また、特別レースとして学長レースと学部選抜レースも行われ、市大学長艇は惜しくも府大学長艇に敗れ2位だった。どのレースも熱戦を繰り広げ、大きな盛り上がりを見せた。



懸命にボートを漕ぐ出場選手たち



会場でパフォーマンスを行った美術部青桃会



開会の挨拶を述べる荒川学長



演舞披露で会場を盛り上げる応援団

## 杉本キャンパス見学の紹介(大学広報室)

毎年4月～11月までの期間、本学では高校生や保護者(P.T.A)を対象に大学見学を行っています。昨年度実績は20校791名。今年は、昨年をはるかに上回る40校(平成28年7月現在)にお申込みをいただいております。年間1,000名を超える方々が来学されています。

その内容は、大学概要の説明・大学紹介DVD視聴、集合写真に加えて、入試説明・キャンパス見学などです。



来場者の集合写真

集合写真は、来場記念として1号館をバックに写真を撮影し、後日公式Facebookに掲載しています。

キャンパス見学では、約40分かけて本館地区、理系地区、旧教養地区の3ヶ所を案内します。1号館や各学部棟などの教育関係施設をはじめ、グローバルビレッジ、イチダイ花壇、南部ストリートなど本学のさまざまなスポットを紹介しています。



キャンパス見学

特に学術情報総合センターの紹介では、日本最大級の大学図書館であることを伝えると「すごい！広い」との声

がよく挙がります。また、コミュニケーションスペースの「ラーニングコモンズ」では、実際に学生がゼミの集まりで利用しているところを見学でき、高校生は普段見ることができない大学生生活に目を輝かせています。PCルームにあるずらりと並んだ120台のPCを見て、驚いている光景も良く見られます。



五代友厚像を囲んで

また、3月に建立された「五代友厚像」をキャンパス見学のルートに新たに追加しました。保護者の方に、NHKの連続テレビ小説「あさが来た」でディーン・フジオカさんが演じた五代友厚の話をすると、とても反応が良く、銅像と一緒に写真を撮るなど、キャン

### 弁護士法人なにわ共同法律事務所

弁護士 鬼 追 明 夫

(法・昭32年卒)

事務所 〒530-0047

大阪市北区西天満2丁目3番15号  
千都ビル2階

TEL. 06-6363-2191 FAX. 06-6363-1468

URL: <http://www.naniwakyodo.com>

パス見学には欠かせない人気スポットとなっています。

見学を終えた保護者や先生方からは、「緑も多く勉強に励みやすい環境が良い」「是非とも合格させたい」といった感想をいただいております。今後も出来る限り多くの高校生や保護者の方々に本学の魅力を知ってもらうため、より一層業務を充実させていきたいと考えています。

# 大阪市立大学同窓会女性部会(WPC)

## 第3回交流会の開催

平成28年5月19日(休)16時30分より、  
大阪市立大学学術総合情報センター10  
階研究者交流室にて大阪市立大学同窓  
会女性部会(WPC: Women's  
Promotion Center) 第3回交流  
会が開催された。(出席者 23名: 内  
卒業生11名、在学生12名)

### △開会挨拶▽

畑田美智子女性部会世話人代表から、  
本会の趣旨・経緯について説明が  
あった。

### △ゲストスピーカーによる講演▽

「新聞報道の現場から30年前の私  
に伝えたいこと」と題し、読売新聞  
大阪本社論説・調査研究室の戸田博  
子・主任研究員が講演した。

1989年に新聞記者として働き始  
めた戸田氏にとって、今の大学生は、  
30年前の自分と同じ世代にあたる。経  
済記者として、数多くの企業の栄枯盛  
衰を見続けた経験から、今の大学生が、  
変化を前向きにとらえて働くことの大切  
さを強調した。先を見通す力をつけ

るために、「経済環境や企業の姿が30  
年どのように変化するか」とや、  
「経済の先をどう考えるべきか」につ  
いて、取材を通して蓄積した事例をも  
とに、わかりやすく解説した。



戸田博子氏の講演風景

経済記者は、企業倒産、M&A、社  
長交代などをニュース記事や連載記事  
にする。そのためには、企業関係者に  
「夜討ち朝駆け」を続け、取材先と信  
頼関係を結ぶことが重要という。日々、

続けることで、独自の記事を書けるよ  
うになる、という。

また、さまざまな企業やそこで働く  
人々を見続けた経験から、企業が同じ  
姿で永続することの難しさを強調。卒  
業時点の人気企業が並ぶ「就職先人気  
企業ランキング」の変遷を解説し、卒  
業当時の人気企業が、新入社員が中堅  
社員になったり、定年したりするころ  
には、業績も、事業内容も、大きく変  
化していることを示した。

企業が成長するためには、経営者は、  
時代の変化に対応し、正しい判断をし  
続けなければならない。液晶で一時代  
を築いたものの、苦境に陥ったシャ  
ープなど、かじ取りが難しくなる例もあ  
る。

インターネット、AI(人工知能)  
などの発達による影響で、消えゆく仕  
事もあるが、若者は、自らの力をつけ  
ることで、より広い舞台で活躍できる  
ようになる、と指摘。女性が働く環境  
も、男女雇用機会均等法、女性活躍推  
進法など、法の整備によって大きく変  
化しており、チャンスが増えている、  
とした。

学生が時代の流れを読み、働く会社  
や仕事を選ぶのは非常に難しい。ただ、  
激しい変化の中で、新聞が果たす役割  
は大きくなっている。多くの記者が事

実・真実を丹念に発掘し、紙面で示す。  
それらは、これまでも、そして、これ  
からも変わらない、「新聞のちから」  
だと強調。大学生には、毎日、新聞を  
読み、活用することで、読む力や書く  
力、そして、先を読む力を養ってほし  
い、と訴えた。

市大の学生数は、大規模な国立大や  
私立大に比べて少ない。同窓会のネッ  
トワークも強いとはいえない。ただ、  
数が少ないということは、メンバーが  
密につながることもできる。戸田氏は  
「学生の間に、自分の発信力を鍛え、  
積極的にネットワークを作ってほし  
い。それは社会人になっても生きる」  
と結んだ。

### △質疑応答▽

ゲストスピーカーの講演に基づいて  
質疑応答が行われた。新聞記者の仕事  
のハードさや、そのモチベーションに  
ついての質問があり、うまく気分転換  
をしながら仕事に情熱を燃やし続けて  
こられたことに、一同感心した。

### △参加者によるフリーディスカッション▽

出席者全員を4グループに分けて、  
フリーディスカッションを行った。  
各グループに卒業生と在学生をほぼ  
均等に入らうようグループ分けし、在学

生が持っている課題について、グループみんなで話し合った。終了後、各グループから報告があり、進路、就職、社会で活躍する姿勢等々について、自由で率直な話し合いが行われた。

△閉会挨拶▽

女性部会世話人でもある下崎千代子商学部教授から閉会の挨拶があった。



下崎千代子教授の閉会挨拶

変参考になった」と好評であった。

女性部会の活動の趣旨については、ほぼ全員から理解が得られており、今後のテーマについても、今回と同様「社会で活躍している先輩方の話(経験談、専門知識)(46%)、」社会での活躍と家庭との両立(23%)、「就職活動(23%)、「地域社会との連携(8%)と希望があった。

さらに「ネットワークの構築はありがたい」「ざっくばらんに話が聴けて良かった」「参加して今後のやるべきことが見つかったと思う」「長く継続してほしい」「もっと多くの市大女子学生に知ってほしい」等々女性部会の活動を支援する意見が多く得られた。卒業生のネットワークをさらに充実して行きながら、今後もこのような交流会活動を息長く続けて行く必要があると思われる。

次回交流会は11月3日(木)のホームカミングデイに合わせて開催する予定。

以上

× × ×

△参加者アンケート▽  
参加者に第3回交流会や今後の内容に関するアンケートを行ったところ、17名の回答を得た。(回答率74%)  
当日の講演についてほとんどが「大

大阪市立大学・都市研究プラザ

創立10周年記念国際シンポジウム

「創造都市・包摂都市とレジリエンス」

2016年9月22-24日

会場・大阪国際交流センター(上六)、学術情報総合センター

(杉本)、各現場プラザほか

2006年から都市研究プラザが実施してきた、文部科学省・G-COE(2007-2012)および共同利用・共同研究拠点2014-2019)の課題を中心に総括し、次の10年の方向性を展望するために国際シンポジウムを開催する。9月22日(祝日)および9月23日(金)は大阪国際交流センター小ホール、および豊崎・船場・西成の現場プラザで行われる予定である(22日、小ホールのみ同時通訳、他は英語・日本語逐次訳あり)。

主要テーマとして、文化創造性・地域福祉・芸術の各々とレジリエンス(復元力)に分け、B・シエルドン(シドニー大学・メルボルン大学)、C・ケステルト(ルーベン大学)、M・ヴェンテ(Motte)、F・バルデネルガー(ドイツ日本研究所)などの専門家を招聘するとともに、自治体や市民団体、中・高校生などの報告も

予定している。

また、梅田近辺の長屋に設置した豊崎プラザでは、母屋でのワークショップとともに周辺の中崎町の街歩きや「暮らしの今昔館」の見学会を行う。

梅田第二ビル6Fの文化交流センター、あべのメディアックス、および杉本キャンパス・学術情報総合センター10階会議室などにおいて、都市プラザの特別研究員による研究成果が披露されるとともに、「昭和記念館と三木茂」(国土交通省)、「開高健と田辺」、「美章園の関一邸」、「大塚国際美術館と信楽焼」など、世界の中の大坂の創造性や包摂性をテーマにした報告を予定している。

× × ×

△参加者アンケート▽  
参加者に第3回交流会や今後の内容に関するアンケートを行ったところ、17名の回答を得た。(回答率74%)  
当日の講演についてほとんどが「大